

伏見の写真館、着物やドレス開発

京都市伏見区醍醐の写真館が、病気などで体を動かせない子どもに向けた着物やドレスを開発した。障害があることで七五三などの記念撮影を諦める親が少なくないことを知り、簡単に着せられて、おしゃれも楽しめるように工夫を凝らした。今後、撮影会などでの活用を想定し「楽しみを増やす応援がしたい」と普及に力を注いでいる。

医療ケア児も記念撮影を

「おしゃれ」にこだわり

開発したのは、醍醐和泉町で写真館「こりまスタジオ」を運営する内海さん(仮名)。昨年、医療的ケアが必要な子どもの保護者と交流する中で「家族が出席できない」「ほかの人に買われなから」「着替えるのも大変」といった理由で祝い事での記念撮影を諦める人が少なからずいるを知った。

一方、障害のある子どもを撮影するカンパイン側でも「肩のこすチュウプが邪魔をしない」「おしゃべりな状態に配慮してほしい」と不安の声が聞かれた。

「おしゃれ」をテーマに、単に着るだけの撮影用衣装の開発に着手。1年かけて、医療的ケア児の着物の開発に着手。17日(仮名)は、着物の着付けが難しい子どもに配慮し、ドレスの4種を開発した。これまでも、写真館で開いたワークショップで、親が購入したカンパインが、一人で着られるように工夫した。手足を動かして、ボタンを調整して、着替えるのも大変な中、内海さんは「子どもたちの成長を撮影し、大切な瞬間を共有し、障害のある子どもたちにも、平等な機会を提供したい」と話している。

今後、写真館や施設、病院への販売や、個人向けのレンタルなども検討している。同スタジオ075(仮名)のスタッフが、月、火曜休み。



①医療的ケアが必要な子どもが着やすいように工夫した着物やドレスと内海さん(京都市伏見区醍醐和泉町)
②開発した着物を着て撮影したモデル写真—ゴリマスタジオ提供